

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ケ イ ブ  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 ・ CEO 高 野 健 一  
 (コード番号: 3760、JASDAQ)  
 問 合 せ 先 常 務 取 締 役 ・ CFO 菊 地 徹  
 (TEL. 03-6820-8176)

### 第三者割当による新株式の発行に関するお知らせ

当社は、平成29年12月5日開催の取締役会において、SAMURAI&J PARTNERS株式会社（以下「割当予定先」といいます。）に対する第三者割当による新株式の発行（以下、「本第三者割当増資」といいます。）を行うことを決議しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 募集の概要

(1) 払込期日	平成29年12月22日（金）
(2) 発行新株式数	112,100株
(3) 発行価額	1株につき1,873円
(4) 調達資金の額	209,963,300円
(5) 募集又は割当方法	第三者割当の方法による。
(6) 割当予定先	SAMURAI&J PARTNERS株式会社
(7) その他	本第三者割当増資については、金融商品取引法に基づく届出の効力が発生していることが条件となります。

#### 2. 募集の目的及び理由

##### (1) 資金調達の主な目的、背景

当社は、平成6年6月の設立以来、「ケイブが創ると未来はもっと楽しくなる。」というコンセプトの下、コンシューマーゲーム（注1）、モバイル公式コンテンツ（注2）、PC オンラインゲーム（注3）、モバイルブラウザゲーム（注4）、スマートフォンネイティブゲーム（注5）等、多くの方々に楽しんでいただくコンテンツ作りに邁進してまいりました。

その間、当社は、時代の変化に常に迅速に適応し、特に近年ではスマートフォンやパソコンの普及により、オンライン上で手軽にアクセスできるコンテンツ提供に注力してきております。その結果、現在はオンライン上で提供するコンテンツの売上高が全体の約100%を占めており、「オンラインエンターテイメント企業」としての地歩を固めつつあります。当社が現在注力しているスマートフォンネイティブゲームの日本市場は、スマートフォンの普及に伴い急激に拡大したことから、収益機会を求めて多くの企業が参入し、多数のゲームが競合する厳しい環境となっております。また、このような市場環境下において、高いクオリティのゲームを制作するための開発費用が高騰するとともに、競合する多数のゲームの中から、自社のゲームの発見率を向上させるために多額の広告宣伝費が必要となります。スマートフォンネイティブゲームは移動中や隙間時間のほか、テレビを視聴しながらでもプレイが可能であり、ヒットタイトルの多くは、多額の費用を投じてテレビCMなどのマス媒体による露出を行っているところ です。

当社は、平成27年4月に「ゴシックは魔法乙女」のサービスを開始しております。当社は、創業以来アーケードゲーム（注6）やコンシューマーゲーム向けに主としてシューティングゲームを提供してきており、「ゴシックは魔法乙女」も当社が制作したシューティングゲームであることから、リリース直後から順調に売上を伸ばし、平成29年5月期においては、当社全体の売上高の80%以上を占めるまでに至っております。

もっとも、「ゴシックは魔法乙女」も、リリース後2年半が経過しており、同種のゲームが続々と市場に投入されている環境においては、今後も一から各ゲームを開発して市場に供給することだけに注力していると、現在の売上又は利益を継続的にあげることは容易ではないと考えております。

また、「ゴシックは魔法乙女」のみをヒットタイトルとして育てるだけでは、当社の事業は「ゴシックは魔法乙女」の今後の売上に大きく依存することになってしまい安定しませんし、「ゴシックは魔法乙女」の

ヒットも永続的に続くものではありません。そのため、当社としては、これと並行して新規タイトルを開発し、次のヒットタイトルを育てる準備を継続的に行うことが必要不可欠であります。しかし、昨今の競争環境が厳しい日本のゲーム市場において、一から新規タイトルの開発を行い、クオリティの高いゲームをリリースすることは、多くの時間と多額の開発費を要します。さらに、時間と費用をかけて開発したとしても、これがヒットするか否かは確実ではなく、多くの不確実性を有することになります。

そこで、当社は、昨今著しく開発クオリティの上がっている、海外企業開発タイトルを日本国内市場へ投入する為の海外パブリッシュ案件を第2の柱にするべく活動をしており、第一弾として韓国において開発されたタイトル「ロード・オブ・ダンジョン」の日本国内における配信権を取得し、平成29年11月28日にリリース致しました。「ロード・オブ・ダンジョン」は、iOSやAndroidで作動するスマートフォンネイティブゲームです。自分の拠点である村周辺の「探索」によってエリアを広げて領地を拡大し、発見したダンジョンで「バトル」をすることでモンスターを捕獲します。発見したダンジョンは「経営」することができるようになり、捕獲したモンスターはダンジョン内に配置できるようになります。拠点である村の周辺に「経営」できるダンジョンを増やすことにより、他のユーザーが村を訪れる機会が増え、アイテム販売などの収入を得て村を拡張していきます。このように「ロード・オブ・ダンジョン」は、これまでの日本国内におけるロールプレイングゲームやシミュレーションゲームに無かった、ダンジョンを「経営する」という新しいゲーム性を持っております。まずは、当該タイトルを日本市場におけるヒットタイトルに育てるべく、プロモーション活動に注力することが必要と考えております。

また、これに引続き、「ロード・オブ・ダンジョン」以外の海外企業開発のタイトルを継続的に獲得し、日本国内において配信が出来るよう、海外企業との交渉を進めております。

海外企業開発タイトルの獲得及び日本国内における成功には、日本マーケットにあわせたプロモーション、ローカライズ・カルチャライズが必須であり、これらに多額の費用を要します。また、海外企業開発タイトルを獲得するタイミングは難しく、時機を見て迅速に獲得して、速やかに日本市場に投入することが必要であるため、獲得の為の費用を常に用意していなければなりません。この点において、ご理解頂いた割当予定先に本第三者割当増資をお引き受け頂く事により、海外パブリッシュ案件を収益の第2の柱に出来ると考えております。

- (注) 1. 「コンシューマーゲーム」とは、家庭用ゲーム機器とゲームソフトでプレイするゲームをいいます。
2. 「モバイル公式コンテンツ」とは、携帯電話の通信キャリアやゲーム運営会社が運営するサイトにおいて提供される、ゲームソフト、音楽配信、占い等の情報配信等のコンテンツをいいます。
3. 「PC オンラインゲーム」とは、パソコンを利用した「オンラインゲーム」をいいます。「オンラインゲーム」とは、インターネットに接続してユーザー同士がコンピュータネットワーク上でプレイするゲームをいいます。
4. 「モバイルブラウザゲーム」とは、携帯端末機器（フューチャーフォン及びスマートフォンを含みます。）を利用する「ブラウザゲーム」をいいます。「ブラウザゲーム」とは、ゲームソフトやアプリケーションをダウンロードすることなくインターネットに接続してブラウザ（Web ページを閲覧するソフト）上でプレイするゲームをいいます。
5. 「スマートフォンネイティブゲーム」とは、スマートフォンにゲームソフトをダウンロードしてプレイするゲームをいいます。
6. 「アーケードゲーム」とは、業務用ゲーム機械でプレイするゲームをいいます。

(2) 本第三者割当増資を選択した理由

当社取締役会における本第三者割当増資と他の資金調達の手段との比較検討結果については、次のとおりです。

まず、①間接金融（銀行借入及び社債）による資金調達は、当社の事業内容が、スマートフォンネイティブゲームという多数の競合他社が存在する市場であり、開発費や広告宣伝への先行投資資金を確実に回収できるかどうか不明確な状況であることから、事実上調達が困難な状況にあります。

次に、②直接金融による資金調達のうち、公募増資及び株主割当においては、多額かつリスクの高い開発資金及び広告宣伝費について出資者を広く募ることから、必要十分な引受先が集まらない可能性が高いこと、株式市場における需給が悪化し、株価下落の要因となる結果、当社の信用や事業に悪影響を及ぼす可能性があること、さらには調達に要するコストが第三者割当増資に比して高いことから、本第三者割当増資と比較して適切でない判断いたしました。

また、③ライツ・オフリングにおいては、ノンコミットメント型と、当社と金融商品取引業者とで元引受契約を締結するコミットメント型のものがありますが、コミットメント型は、国内における事例が少なく事前準備に相応の時間を要することや引受手数料等の発行コストが高くなることが予想され、また、ノンコミットメント型には上記②と同様に、既存株主の参加率が不透明であるために資金調達の蓋然性確保の観点で問題があること、④新株予約権においては、第三者割当増資に比べて資金の調達時期が不安定であることから、本第三者割当増資と比較して適切でない判断いたしました。

以上より、当社取締役会は、本第三者割当増資による資金調達が最適と判断いたしました。

3. 調達する資金の額、使途及び支出予定時期

(1) 調達する資金の額

(1) 払込金額の総額	209,963千円
(2) 発行諸費用の概算額	12,000千円
(3) 差引手取概算額	197,963千円

(注) 1. 発行諸費用の概算額には、消費税は含まれておりません。

2. 発行諸費用の概算額の内訳は、主に、有価証券届出書等の書類作成費、弁護士費用、登記費用、その他手数料等の合計額です。

(2) 調達する資金の具体的な使途

本第三割当増資によって調達する資金の額は合計209,963,300円（差引手取概算額の合計197,963,300円）となる予定であり、調達する資金の具体的な使途については、次の通り予定しています。

具体的な使途	金額（百万円）	支出予定時期
「ロード・オブ・ダンジョン」プロモーション費用	150	平成29年12月～ 平成30年5月
海外タイトルの獲得費用	47	平成29年12月～ 平成30年5月

(注) 1. 上記の使途及び金額は、現時点での当社のプロモーション及び海外タイトルの獲得計画を前提として、現時点で入手し得る情報に基づき合理的に試算したものであります。このため、今後、当社がプロモーション及び海外タイトルの獲得計画を変更した場合あるいは事業環境の変化があった場合など、状況の変化に応じて使途又は金額が変更される可能性があります。また、上記の支出予定時期は、プロモーション及び海外タイトルの獲得が順調に進捗した場合を前提としております。

2. 調達資金を実際に支出するまでは、銀行預金で運用する予定であります。

・「ロード・オブ・ダンジョン」プロモーション費用

当社は「2. 募集の目的及び理由 (1) 資金調達の主な目的、背景」において記載したとおり、韓国において開発されたタイトル「ロード・オブ・ダンジョン」を平成29年11月28日に日本国内においてリリースいたしました。

「ロード・オブ・ダンジョン」は、iOS や Android で作動するスマートフォンネイティブゲームです。自分の拠点である村周辺の「探索」によってエリアを広げて領地を拡大し、発見したダンジョンで「バトル」をすることでモンスターを捕獲します。発見したダンジョンは「経営」することができるようになり、捕獲したモンスターはダンジョン内に配置できるようになります。拠点である村の周辺に「経営」

できるダンジョンを増やすことにより、他のユーザーが村を訪れる機会が増え、アイテム販売などの収入を得て村を拡張していきます。このように「ロード・オブ・ダンジョン」は、これまでの日本国内におけるロールプレイングゲームやシミュレーションゲームに無かった、ダンジョンを「経営する」という新しいゲーム性を持っております。

当該タイトルの日本市場に向けた、主にインターネットを活用した6カ月間のプロモーション費用として150百万円を見込んでおります。

#### ・海外タイトルの獲得費用

当社は「2. 募集の目的及び理由 (1) 資金調達の主な目的、背景」において記載したとおり、「ロード・オブ・ダンジョン」以外の海外企業開発のタイトルを継続的に獲得し、日本国内において配信が出来るよう、海外企業との交渉を進めております。その第2弾目となる海外タイトルの獲得費用(契約金・ローカライズ等)として47百万円を見込んでおります。

以上の施策を目的に、当社は平成29年12月5日、本第三者割当増資を決定致しました。

#### 4. 資金使途の合理性に関する考え方

当社は、本第三者割当増資により調達した資金を、上記「3. 調達する資金の額、使途及び支出予定時期」の「(2) 調達する資金の具体的な使途」に記載の使途に充当することによって、「ロード・オブ・ダンジョン」プロモーション及び海外タイトルの配信による売上規模の拡大及び財務基盤の強化を図ることができると考えており、株主価値の向上に資する合理的な資金使途であると判断しております。

#### 5. 発行条件等の合理性

##### (1) 払込金額の算定根拠及びその具体的内容

本第三者割当増資における発行価格については、割当予定先との協議を踏まえ、当社取締役会は、本第三者割当増資に係る取締役会決議日の直前営業日(平成29年12月4日。以下「基準日」といいます。)の株式会社東京証券取引所(以下「東京証券取引所」といいます。)における当社株式の終値を基準とし、かかる値から8.99%(小数点以下第3位を四捨五入しています。以下、ディスカウント率又はプレミアム率の計算において同様に計算しております。)のディスカウントである1,873円といたしました。

本第三者割当増資に係る取締役会決議日の直前営業日の終値を基準としたのは、直近の株価を基準とすることが当社の企業価値を最も適正に反映していると判断したためです。当社は、当社株価のボラティリティの大きさ及び本第三者割当増資により生じる希薄化等を総合的に勘案し、割当予定先との協議の上、8.99%のディスカウントをすることを決定いたしました。

割当予定先からは、当社の事業戦略及び将来性について一定の理解をしてもらっているものの、業績の回復が遅れていること、新規タイトルのプロモーション及び海外タイトルの獲得を今後積極的に行っていく予定であること等から、株価下落リスクもあり、ディスカウント価格で引き受けることにより株価下落損失を最小限としたい旨の提案を受けました。当社としては、既存株主の皆様の株式の希薄化を最大限防止するべく、割当予定先と交渉を重ねましたが、当社の財務状況を改善して、新規タイトルへのプロモーション費用及び海外タイトルの獲得費用を調達することが当社にとって急務であり、これを実現することが企業価値の向上及び既存株主の皆様の利益に繋がると考え、上記のディスカウント価格で本第三者割当増資を実行することといたしました。

当該価格は、東京証券取引所における当社株式の基準日以前1ヶ月間の終値平均である1,823円(円未満四捨五入。以下、終値平均の計算において同様に計算しております。)に対して2.74%のプレミアム、基準日以前3ヶ月間の終値平均である1,747円に対して7.21%のプレミアム、基準日以前6ヶ月間の終値平均である1,611円に対して16.26%のプレミアムをそれぞれ加えた金額となっております。

日本証券業協会の「第三者割当増資の取扱いに関する指針」では、第三者割当増資の発行価額は原則として取締役会決議日の直前営業日の株価に0.9を乗じた額以上の価額であるべきこととされているところ、この発行価額は、当該指針に準拠するものであり、特に有利な払込金額に該当しないものと判断しております。

なお、当社監査役3名(社外監査役2名)全員からは、上記払込金額は、当社株式の価値を表す客観的な価値である市場価格を基準にし、日本証券業協会の「第三者割当増資の取扱いに関する指針」に準拠したものであり、当社の直近の財政状態及び経営成績等を勘案し、適正かつ妥当であり、特に有利な払込金額には該当せず、適法である旨の意見を得ております。

(2) 発行数量及び株式の希薄化の規模が合理的であると判断した根拠

本第三者割当増資により発行される株式数112,100株（議決権数1,121個）が、平成29年5月31日現在における当社の発行済株式数2,782,600株（議決権数27,826個）に占める割合は、4.03%（小数点以下第3位を四捨五入しています。以下、割合の計算において同様に計算しております。）であり、当該割当数量に係る議決権の総議決権数に占める割合は4.03%となり、一定の希薄化が生じます。

一方で、上記「2. 募集の目的及び理由（1）資金調達の主目的、背景」に記載したとおり、当社が本第三者割当増資によって得た資金を、上記「3. 調達する資金の額、用途及び支出予定時期」の「（2）調達する資金の具体的な用途」に記載した用途に用いることは、当社がスマートフォンネイティブゲーム市場で競争力を維持するために必要であり、かつ当社が「ロード・オブ・ダンジョン」のプロモーションを行い、海外タイトルを獲得するにあたり必須であることから、企業価値の最大化につながるものと判断しております。

したがって、本第三者割当増資の規模及び希薄化率は合理的であり、当社及び株主の皆様への影響という観点からみて相当であると判断しております。

6. 割当予定先の選定理由等（1）割当予定先の概要

(1) 名称	SAMURAI&J PARTNERS株式会社		
(2) 所在地	大阪市北区西天満四丁目11番22号		
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 安藤 潔		
(4) 事業内容	情報サービス事業、金融取引事業		
(5) 資本金	1,337,285千円		
(6) 設立年月日	平成8年2月6日		
(7) 発行済株式数	2,985,000株（平成29年11月1日現在）		
(8) 決算期	1月31日		
(9) 従業員数	（連結）13名、（単体）10名（平成29年11月1日現在）		
(10) 主要取引先	株式会社ネクスティエレクトロニクス ソフトバンクコマース&サービス株式会社 各都道府県警察本部及び各地方検察庁等		
(11) 主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行		
(12) 大株主及び持株比率 （平成29年7月31日現在）	藤澤 信義 （常任代理人 UBS証券株式会社）	31.95%	
	寺井 和彦	15.09%	
	株式会社SBI証券	3.29%	
	熊倉 次郎	2.78%	
	日本証券金融株式会社	2.53%	
	松井証券株式会社	1.23%	
	株式会社玄武	1.11%	
	野村証券株式会社	1.09%	
	佐々木 永年	1.01%	
	柿沼 佑一	0.78%	
当事会社間の関係			
(13)	資本関係	該当事項はありません。	
	人的関係	該当事項はありません。	
	取引関係	該当事項はありません。	
	関連当事者への 該当状況	該当事項はありません。	
(14) 最近3年間の連結経営成績及び連結財政状態	（単位：千円。特記しているものを除く。）		
決算期	平成27年1月期	平成28年1月期	平成29年1月期
連結純資産	988,560	978,586	834,001
連結総資産	1,030,706	1,029,928	871,838
1株当たり連結純資産(円)	367.36	363.65	309.92
連結売上高	180,920	155,014	148,133
連結営業利益	16,779	20,377	△86,534
連結経常利益	17,398	6,334	△83,856
親会社株主に帰属する当期純利益	13,384	△11,228	△143,404
1株当たり連結当期純利益(円)	4.97	△4.17	△53.29
1株当たり配当金(円)	—	—	—

(注) 当社は、割当予定先より、反社会的勢力等とは一切関係がないことの説明を受けており、割当予定先は東京証券取引市場JASDAQ（グロース）上場会社であり、当社は、割当予定先が東京証券取引所に提出しているコーポレートガバナンス報告書において、反社会的勢力等と一切の関係を持たず、これら

の活動を助長するような行為を行わないことを基本方針としている旨記載されていることを確認しております。

(2) 割当予定先を選定した理由

上記「2. 募集の目的及び理由」に記載したとおり、当社は、現在の経営環境及び財政状態に鑑み、資金面が喫緊の課題であるところ、現在までに様々な資金調達方法の検討を行ってまいりました。平成29年7月頃に当社顧問の紹介により割当予定先から投資を目的とした出資の提案がありましたが、当社内で事業展開や資金需要に関する様々な検討を続けていたため実施に至りませんでした。しかし、平成29年10月頃に、当社から割当予定先の意向を改めて確認したところ、割当予定先より投資を目的とした出資のご提案が再度あり、当社が進めようとしている海外パブリッシュ案件における費用面の確保において最適なタイミングであり、かつ当社の事業戦略にご賛同頂け、両社のニーズが合致したため、本第三者割当増資を実施することとなりました。

(3) 割当予定先の保有方針

当社は、割当予定先との協議の中で、割当予定先が本第三者割当増資により取得する当社株式について、経営権の獲得等の目的ではなく、純投資目的であること、また、売却に際しては、東京証券取引所の定める譲渡の報告等に関するルールその他の法令諸原則を遵守することを口頭で確認しております。

なお、当社は、割当予定先から、割当予定先が払込期日から2年以内に本第三者割当増資により発行される当社株式の全部又は一部を譲渡した場合には、その内容を当社に対して書面により報告すること、当社が当該報告内容を東京証券取引所に報告すること、並びに当該報告内容が公衆の縦覧に供されることに同意することにつき、確約書を取得する予定です。

(4) 割当予定先の払込みに要する財産の存在について確認した内容

当社は、割当予定先から、本第三者割当増資の資金は手許現預金でまかなう旨の説明を受けています。なお、当社は、割当予定先が平成29年9月13日付けで公表している平成30年7月期第2四半期報告書に含まれる四半期連結貸借対照表において、平成29年7月31日時点の現預金が445,968千円であることを確認しており、本第三者割当増資の払込みに必要かつ十分な現預金を有しているものと判断しております。

(5) 株式貸借に関する契約

本第三者割当増資に際し、事前に当社代表取締役社長高野健一と割当予定先の間で、株式消費貸借契約を締結しております。その株式消費貸借契約により、高野健一は当社の株式13万株を割当予定先に貸し付けており、割当予定先によれば、平成29年12月6日から払込期日の前日であります12月21日までの間に、法令又は東京証券取引所の定めるルールの範囲内で、貸借した株式の全部又は一部を市場で売却することを予定しているとのことです。

貸借した株式13万株については、本第三者割当増資にて割り当てた株式及び市場で買い戻した株式にて弁済期日であります平成30年1月5日に返却される予定です。

## 7. 第三者割当後の大株主及び持株比率

第三者割当増資前 (平成29年5月31日現在)	
高野健一	8.63%
株式会社大洋グローバルビジネス	7.31%
株式会社SBI証券	4.05%
武藤貴宣	4.04%
楽天証券株式会社	3.36%
日本証券金融株式会社	2.27%
CREDIT SUISSE AG (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	1.46%
日野洋一	1.12%
三輪洋照	1.10%
高田信作	0.96%

- (注) 1. 持株比率は、発行済株式数(2,782,600株)から自己株式数(47,000株)を控除した株式数(2,735,600株)に対する保有株式数の割合であり、小数点以下第3位を四捨五入しております。
2. 第三者割当増資前の持株比率は、平成29年5月31日現在の株主名簿に記載された保有株式数をもとに計算しております。
3. 割当予定先によれば、本第三者割当増資により取得する当社株式の保有目的は純投資であり、取得した当社株式を割当予定先の投資判断に基づき売却する可能性があるとのことです。したがって、割当予定先による当社株主の長期保有は約されておりませんので、割当後の「持株比率」の記載はしていません。また、割当予定先以外の所有株式数が平成29年5月31日以降変更がないものとして計算しております。

## 8. 今後の見通し

現時点では、平成30年5月期の業績への具体的な影響は未定ですが、当社は、本第三者割当増資が当社の企業価値及び株主価値の向上に資すると考えております。具体的な影響が明らかになった場合には、速やかに開示いたします。

## 9. 企業行動規範上の手続きに関する事項

本第三者割当増資は、①希薄化率が25%未満であること、②支配株主の異動を伴うものではないことから、東京証券取引所の定める有価証券上場規程432条に定める独立した第三者からの意見入手及び株主の意思確認手続は要しません。

10. 最近3年間の業績及びエクイティ・ファイナンスの状況

(1) 最近3年間の業績（非連結）（単位：千円。特記しているものを除く。）

決算期	平成27年5月期	平成28年5月期	平成29年5月期
売上高	1,664,908	2,344,940	2,820,785
営業利益又は営業損失（△）	△455,980	105,910	△220,995
経常利益又は経常損失（△）	△485,938	103,716	△229,176
当期純利益又は 当期純損失（△）	△728,658	95,353	△391,256
1株当たり当期純利益又は1株 当たり当期純損失（△）（円）	△306.06	39.41	△152.65
1株当たり配当金（円）	—	—	—
1株当たり純資産（円）	206.88	254.43	226.46

(2) 現時点における発行済株式数及び潜在株式数の状況（平成29年10月31日現在）

種類	株式数	発行済株式数に対する比率
発行済株式数	2,782,600株	—%
現時点の転換価額（行使価額）に おける潜在株式数	—株	—%
下限値の転換価額（行使価額）に おける潜在株式数	—株	—%
上限値の転換価額（行使価額）に おける潜在株式数	—株	—%

(3) 最近の株価の状況

① 最近5年間の状況

	平成27年5月期	平成28年5月期	平成29年5月期
始値	1,854円	2,051円	1,445円
高値	3,890円	2,933円	2,140円
安値	1,685円	1,149円	1,427円
終値	3,135円	1,443円	2,058円

② 最近6ヶ月間の状況

	平成29年7月	8月	9月	10月	11月	12月
始値	1,530	1,522	2,000	1,687	1,870	1,813
高値	1,686	2,140	2,026	1,957	2,083	2,244
安値	1,478	1,450	1,559	1,654	1,687	1,774
終値	1,549	1,990	1,687	1,844	1,733	2,058

(注) 1. 各株価は、東京証券取引所ジャスダック市場におけるものであります。  
2. 平成29年12月の株価については、平成29年12月4日現在で表示しております。

③ 発行決議日前日における株価

	平成29年12月4日現在
始値	2,000
高値	2,244
安値	1,908
終値	2,058

過去3年間に行われたエクイティ・ファイナンスの状況等

① 第18回～第20回新株予約権（行使価額修正選択権付）の発行

割 当 日	平成27年8月10日
発行新株予約権数	500,000個 第18回新株予約権 200,000個 第19回新株予約権 200,000個 第20回新株予約権 100,000個
発行価額	第18回新株予約権1個当たり3.5円 第19回新株予約権1個当たり2.9円 第20回新株予約権1個当たり2.5円
発行時における調達予定資金の額（差引手取概算額）	1,646,330,000円
割 当 先	ドイツ銀行ロンドン支店
募集時における発行済株式数	2,461,900株
当該募集による潜在株式数	500,000株（新株予約権1個につき1株） 第18回新株予約権 200,000株 第19回新株予約権 200,000株 第20回新株予約権 100,000株 行使価額上限値はありません。 また、行使価額下限値（1,760円）においても、第18回新株予約権及び第19回新株予約権に係る潜在株式数は200,000株、第20回新株予約権に係る潜在株式数は100,000株です。
現時点における行使状況	行使済新株予約権数：20,000個 第18回新株予約権 10,000個 第19回新株予約権 0個 第20回新株予約権 10,000個 行使価額： 第18回新株予約権 2,200円 第19回新株予約権 3,300円 第20回新株予約権 1,760円 残新株予約権数は、第18回新株予約権につき190,000個、第19回新株予約権につき200,000個、第20回新株予約権につき90,000個でありましたが、当社は平成28年10月19日開催の当社取締役会において、平成28年10月19日において残存する第18回乃至第20回新株予約権の全部を取得及び消却することを決議し、当該決議に基づき、平成28年11月25日に第18回乃至第20回の残新株予約権の全部（新株予約権480,000個）を消却しております。
現時点における調達した資金の額（差引手取概算額）	35,930,000円（注）
発行時における当初の資金使途	スマートフォンネイティブゲーム「ゴシックは魔法乙女」のプロモーションに係る広告宣伝費、スマートフォンネイティブゲームの新規開発に係る人件費及び外注費
発行時における支出予定時期	平成27年9月～平成29年8月
現時点における充当状況	スマートフォンネイティブゲーム「ゴシックは魔法乙女」のプロモーションに係る広告宣伝費に全額を充当

(注) 調達資金の額は、新株予約権の払込金額の総額に新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額を合算した金額から、新株予約権に係る発行諸費用の概算額を差し引いた金額です。

② 第三者割当による行使価額修正条項付第21回新株予約権の発行

払込期日	平成28年11月7日
発行新株予約権数	3,000個
発行価額	新株予約権1個当たり1,500円
発行時における調達資金の額 (差引手取概算額)	461,800,000円(注)
割当先	大和証券株式会社
募集時における発行済株式数	2,482,600株
当該募集による潜在株式数	当初の行使価額(1,541円)における潜在株式数は300,000株であり、価額下限値(925円)における潜在株式数も300,000株です。行使価額上限値はありません。
現時点における行使状況	行使済新株予約権数:3,000個 平成29年2月3日をもって、全個数(3,000個)の権利行使が完了しております。
現時点における調達した資金の額 (差引手取概算額)	370,984,000円
発行時における当初の資金用途	スマートフォンネイティブゲーム「ゴシックは魔法乙女」のプロモーションに係る広告宣伝費
発行時における支出予定時期	平成28年12月～平成30年11月
現時点における充当状況	スマートフォンネイティブゲーム「ゴシックは魔法乙女」のプロモーションに係る広告宣伝費に全額を充当

(注) 調達資金の額は、新株予約権の払込金額の総額に新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額を合算した金額から、新株予約権に係る発行諸費用の概算額を差し引いた金額です。

11. 発行要項

(1) 発行新株式数	112,100株
(2) 発行価額	1株につき1,873円
(3) 資金調達額	209,963,300円
(4) 資本金組入額	104,981,650円
(5) 増加する資本金及び資本準備金	資本金 104,981,650円 資本準備金 104,981,650円
(6) 募集又は割当方法	第三者割当の方法によります。
(7) 割当予定先	SAMURAI&J PARTNERS株式会社
(8) 申込期日	平成29年12月22日
(9) 払込期日	平成29年12月22日

以上